

# フクシマを忘れるな！

## フクシマに連帯しよう！

では、廃炉作業が続けられていますが、汚染水の漏えい、増え続ける放射性廃棄物の処理・処分、溶けた核燃料の状況の把握や取り出しなど重要な課題がまだ解決されていません。事故の収束は40年とも50年とも言われ、それさえ確実ではありません。

健康被害に関しても、県民の47.8%が「長期に亘る健康被害」に不安を感じています（2015年県政世論調査）。子どもの健康面においては、「県民健康調査」が行われ、1巡目では113人、2巡目では、39人が甲状腺がんの悪性または悪性の疑いと診断されました。これが原発事故によるものかは議論の分かれどころですが、多くの子どもたちが、「がん」と診断され心を痛めていることを、私たちはしっかりと受けとめなければなりません。

さらに県民が直面している問題に「住民の帰還」があります。2017年3月までに居住制限区域と避難指示解除区域の避難を解除する方針を国は示しています。同時にその1年後に賠償金を打ち切るとしています。国や東電が避難指示の解除を、賠償や支援の打ち切りとセットで行おうとしています。将来の見通しも定かでない中で、一方的に被災者を切り捨てるることは、被災者を「棄民化」するもので、許すことはできません。

国や東電は、被害への謝罪と賠償、そして

県民の不安にしっかり向き合う事を求めます。

私たちは、第二、第三の福島原発事故を招かないためにも、フクシマを忘れず、原発の再稼働に強く反対します。

2011年3月11日の東日本大震災から5年。

福島では10万近くの県民が、いまだ避難生活を余儀なくされ、肉体的にも、精神的にも苦しい状況が続いている。震災・原発関連で亡くなった方は、2000人を超えた。事故を起こした東電・福島第一原発



2016 原発のない福島を！県民大集会出発式（3月12日・郡山市）

さようなら原発 1000万人アクション実行委員会-

千代田区神田駿河台 3-2-11 連合会館 1階原水禁気付／電話 03-5289-8224